交差法２（単語、慣用句の意味獲得）　　2015/07/28（火）

「考察：言語獲得システム（交差法)」で、文群から単語を獲得して行く方法を提案しました。今回は、単語や慣用句の意味を獲得する方法を考えて行ってみます。方法は、対訳文例群もしくは文章群を用いるものです。解析手続きは交差法です。

日本語の単語と慣用句の意味は分かっていて、そこから対訳文を用いることにより英語の単語の意味を推定して行くということを考えてみます。次のような例です。

（対訳１）昨日、午後３時にベイシアへ行った。

I went to Beisia at 3 afternoon yesterday.

この文では、英語文全体が日本語文全体と同じ意味を持つことは保証されますが、単語の意味は推定できません。そこで、もう一つの対訳文があったとします。

（対訳文２）昨日、学校へ行った。

I went to school yesterday.

２つの対訳文を比較すると、

「昨日・へ行った」と「I went to・ yesterday」とが対応し、「学校」と「school」が対応し、「午後３時にベイシア」と「Beisia at3 afternoon」が対応することが推定されます。ここで、「学校」の意味が分かっていれば、「school」の意味も分かります。以下、色々な対訳文をこの交差法によって突き合せて行けば、単語とか慣用句とかの単位で日本語と英語が対応させることができると言えます。

そのとき、単語の意味では無くて、文とか文章のある部分が時間であるとか、場所、理由とか５Ｗ１Ｈのコンセプトの形の情報が付加されると、さらに効率的に意味が切り取られるでしょう。とくに、挨拶などでは、「おはようございます」を「朝の初対面の挨拶」というような意味コンセプトでくくっておけば、「good morning」との対応付けは精確なものになっていくでしょう。

おわり